

警報器について

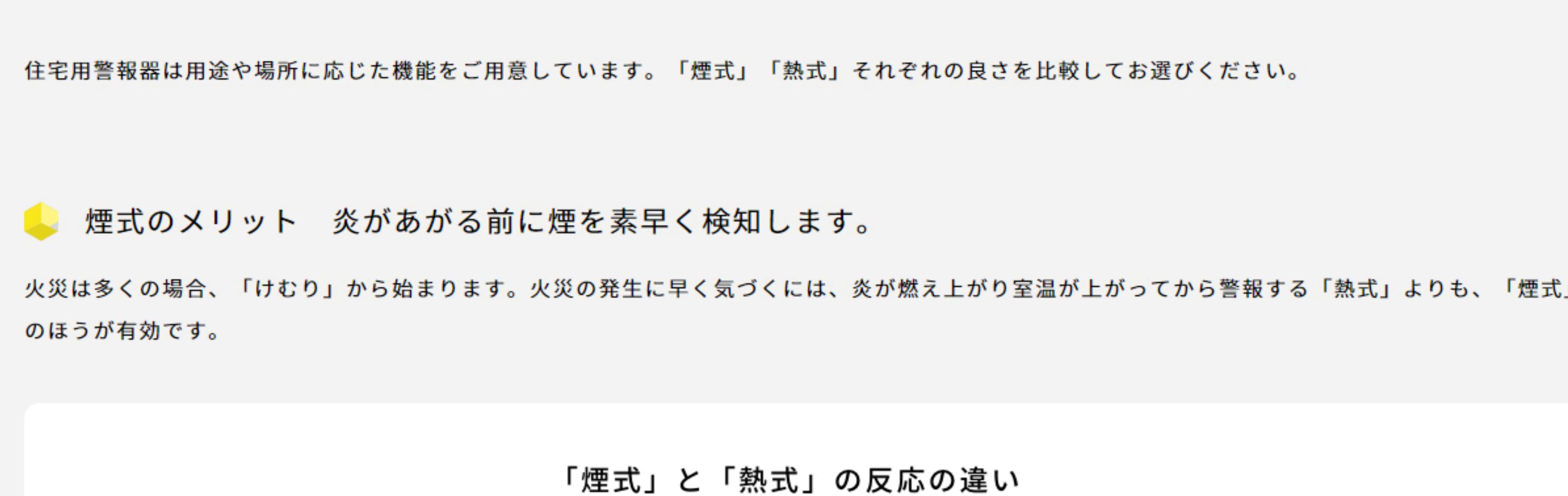
住宅用火災警報器の設置場所



住宅用火災警報器の設置は、平成23年6月までにすべて義務化されています。

住宅火災から大切な家族を守るために、消防法改正により平成18年6月1日から、住宅用火災警報器の設置が必要となりました。設置義務があるのは寝室や階段などです。

◆ これだけ多い火災の被害！だからこそ住宅用火災警報器が必要です。



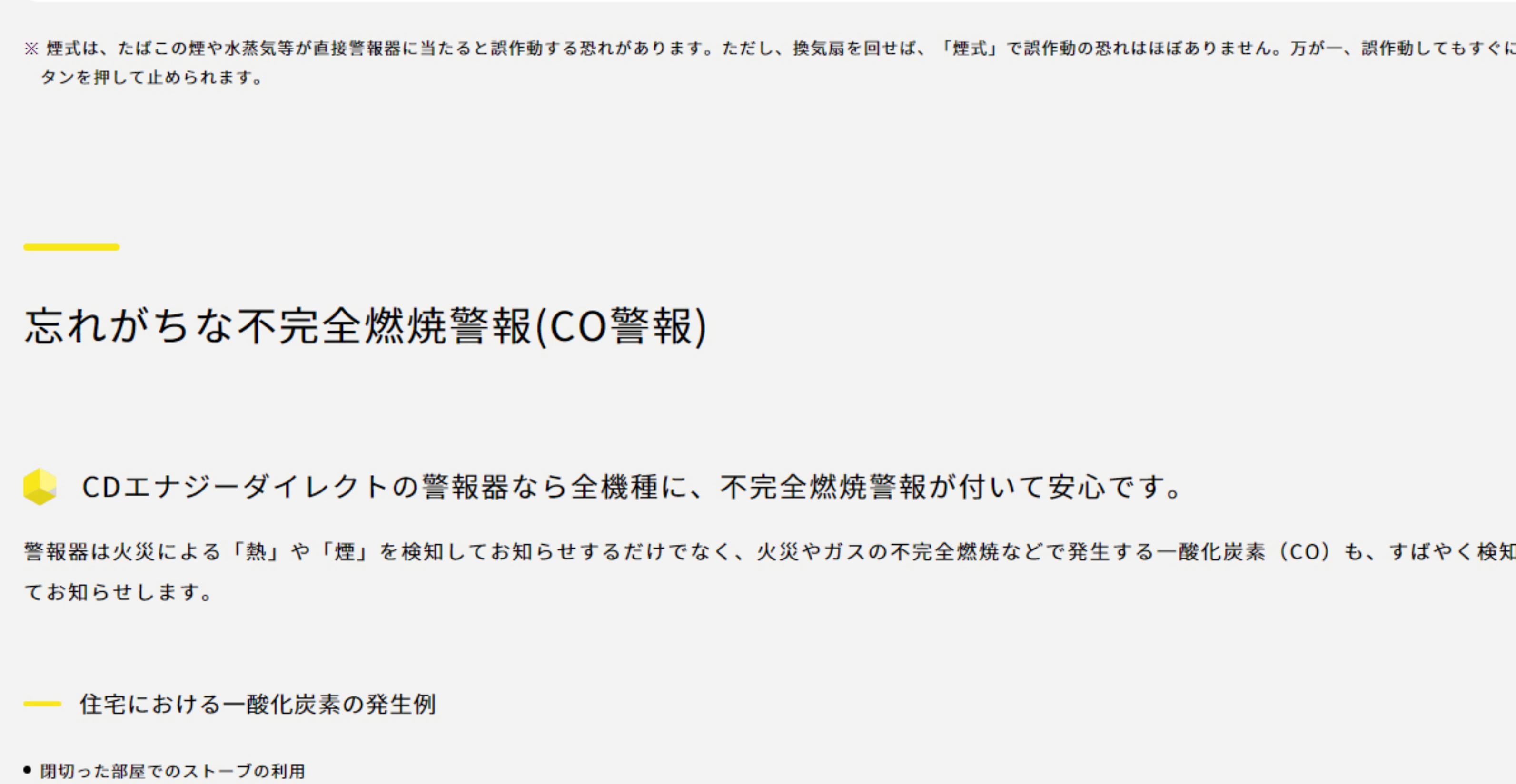
平成23年消防白書より

「煙式」「熱式」それぞれの良さ

住宅用警報器は用途や場所に応じた機能をご用意しています。「煙式」「熱式」それぞれの良さを比較してお選びください。

◆ 煙式のメリット 炎があがる前に煙を素早く検知します。

火災は多くの場合、「けむり」から始まります。火災の発生に早く気づくには、炎が燃え上がり室温が上がってから警報する「熱式」よりも、「煙式」のほうが有効です。



◆ 热式のメリット 誤作動はおきません



※ 煙式は、たばこの煙や水蒸気等が直接警報器に当たると誤作動する恐れがあります。ただし、換気扇を回せば、「煙式」で誤作動の恐れはほぼありません。万が一、誤作動してもすぐにボタンを押して止められます。

忘れがちな不完全燃焼警報(CO警報)

◆ CDエナジーダイレクトの警報器なら全機種に、不完全燃焼警報が付いて安心です。

警報器は火災による「熱」や「煙」を検知してお知らせするだけでなく、火災やガスの不完全燃焼などで発生する一酸化炭素(CO)も、すぐさま検知してお知らせします。

住宅における一酸化炭素の発生例

● 閉切った部屋でのストーブの利用

● 七輪・練炭での料理

● 布団・カーペット等による燐煙

● 不完全燃焼防止機能の付いていない小型湯沸かし器

● 長時間の煮物の焦げつき

◆ 一酸化炭素は無色・無臭。つまり、見えない・臭わない。

一酸化炭素(CO)は、呼吸によって体内に入ると、血液中のヘモグロビンと結びつき、体内に酸素を供給することができなくなってしまいます。最悪の場合、死に至ります。しかもCOは、見えない・臭ないので、CO警報機能の付いた警報器が無いと気が付くことができません。

※ ヘモグロビン=赤血球に含まれるタンパク質で、肺から全身へと酸素を運搬する役割を担っています。

住宅用火災・ガス・CO警報器(台所用)

◆ 煙式 住宅用火災・ガス・CO警報器

ラインアップ	壁掛け用	天井取付用
リース期間	5年 ※機器交換期限が5年となります。	
リース料金	月々330円	

◆ 热式 住宅用火災・ガス・CO警報器

ラインアップ	壁掛け用	天井取付用
リース期間	5年 ※機器交換期限が5年となります。	
リース料金	月々330円	

◆ ガス・CO警報器

ラインアップ	壁掛け用	天井取付用
リース期間	5年 ※機器交換期限が5年となります。	
リース料金	月々287円	

住宅用火災警報器(寝室・階段用)

◆ 住宅用火災警報器

ラインアップ	壁掛け用
リース期間	10年 ※機器交換期限が10年となります。
リース料金	月々198円